

# 高山市の歴史

## 沿 革

高山には、市内を流れる宮川や川上川などによって形成された沖積世の平地や、河岸段丘に面した山麓の緩斜面、扇状地などに、縄文・弥生・古墳の各時代の遺跡が多数存在します。それは古くから人々がこの地に住みつき、豊かな自然の恵みを受けつつ暮らしてきたあかしです。

飛騨地方が大和朝廷へ服属したのは諸説様々ですが、5 世紀以降のことと思われます。奈良時代の国府は高山盆地にあり、国分寺(総和町)と国分尼寺(辻ヶ森三社)が建てられました。天平勝宝元年(749)大野郡大領正七位下飛騨国造高市麻呂(ひだのこくぞうたけちまろ)が国分寺へ知識物を献じて外従五位下を賜ったとあり(続日本紀)、国分寺と大野郡の名が初見されます。養老賦役令に「凡ソ斐陀国ハ調庸俱二免ゼヨ。里ゴトニ匠丁(木工)十人ヲ点ゼヨ。……」とあり、飛騨国は、匠丁を出すことによって庸調が免ぜられていました。それは「今昔物語集」での飛騨匠と絵師百済川成との腕比べの話や、「万葉集」に詠まれた「かにかくに物は思はじ飛騨人の打つ墨縄のただ一道に」のように、黙々と働く「ひだびと」の姿を通して今に伝えられています。

「高山」の地名は、永正年間(1504～21)に守護代多賀氏の一族高山外記が、現在の城山に城砦を築いた頃にさかのぼります。城内に近江の多賀天神を祀り、天神山・多賀山と称したことに由来するともいわれています。

後に京極氏の被官で、守護代多賀氏を祖とするとも伝える三木氏が益田郡に勢力を伸ばし、大永の頃(1521～28)大野郡にも進出し、多賀氏をしのいで実権を握りました。三木自綱は斎藤道三の娘を迎え、信長美濃入国後は信長に近づき、天正 7 年(1579)松倉城を築城して本拠とし、天正 10 年(1582)江馬輝盛を破り、白川郷を除く飛騨を平定しました。

自綱は、秀吉に対抗した佐々成政と結びましたが、天正 13 年(1585)秀吉の飛騨平定の命を受けた金森長近が越前大野城から兵を進め、自綱を滅ぼしました。翌天正 14 年、飛騨に封ぜられた金森長近は鍋山城に入り、天正 16 年天神山に築城を開始、松倉・鍋山城下の商人を移し、白川郷の照蓮寺と和親の誓約を結び、城下に寺地を設け、城下町の形成に着手しました。

城下町は武家屋敷、町人屋敷、寺院群に区分され、武家屋敷は城下江名子川左岸、南は大隆寺下まで、城下西麓から中橋までの宮川右岸、北麓空町一帯、江名子川北岸に及ぶあたりに配置されていました。三代重頼の弟重勝が分家して江名子川北岸に左京屋敷を建て、重頼は娘のために宮川左岸に向屋敷(今の高山陣屋)を建てると、そのあたりまで町家が広がりました。

町人屋敷は、一番町・二番町・三番町が宮川右岸に南北に、それを東西に横切る形で安川町・肴町がそれぞれつくられ、南北方向に通りを発展させた町並でした。城下町によくみられる見通しがきかない道筋は、町の南部と北部に設けられました。

城の北方向には白川郷から照蓮寺 13 代明了を迎えて、照蓮寺を建てました。その周囲に寺内町が発達して照蓮寺がこれを管轄しました。東山一帯には寺院が集められ、大雄寺・素玄寺・天照寺・宗猷寺といった金森氏にゆかりのある寺が建てられました。金森氏が出羽上ノ山に移封されるまでの金森 6 代 107 年間には、京文化および江戸文化を受け入れて、今日の高山の基盤が形成されました。

幕府は元禄 5 年に飛騨を収公したあと、金森氏の向屋敷に代官所を設立し、関東郡代伊奈半十郎忠篤を初代の代官として兼任させ、徳川幕府直轄の天領として高山陣屋において代官・郡代が 25 代 177 年間にわたり治めました。

高山陣屋に代官が常時在勤するようになったのは、享保 13 年(1728)長谷川忠崇からのことでした。高山城は、加賀藩主前田綱紀の家臣永井織部に守らせていましたが、元禄 8 年幕命により取り壊されました。「飛騨の高山御城の御番 つとめかねたよ加賀の衆が」といまでも高山盆踊りの歌詞に残されています。この時代には江戸文化の影響を強く受けるとともに、その名を広く知られる高山祭が盛んとなり、屋台が造られ、市が行われるなど、社会的、文化的な基盤が確立されました。

人口は元禄 8 年(1695)1,259 軒 3,757 人、延享元年(1744)1,513 軒 7,212 人、天保 13 年(1842)1,671 軒 9,237 人で、これは当時の岐阜町より人口が多く、有数の都市でした。

明治維新により東山道鎮撫使竹澤寛三郎が入国し、高山陣屋に天朝御用所の高札を建てました。慶応 4 年 5 月に飛騨県がおかれ、同年 6 月高山県となり、明治 4 年筑摩県に移管されるまでの 3 年 6 か月間、梅村速水、宮原積の二人の知事により治められました。

明治 8 年に高山一之町村・二之町村・三之町村が合併して高山町となり、また、大野郡片野村ほか 22 か村が合併して大名田町となりました。翌明治 9 年に高山町は岐阜県の管下となり、明治 22 年に 15,385 人で新しい町制を実施し、大正 9 年の第 1 回国勢調査の人口は 16,344 人でした。その後大正 15 年に灘村を合併、昭和 9 年にはその後の高山および飛騨の発展に大きく寄与した高山本線が開通、昭和 11 年 11 月 1 日に大名田町を合併して市制を施行、「高山市」として発足しました。昭和 18 年上枝村、昭和 30 年大八賀村を合併しました。

平成 17 年 2 月 1 日には、丹生川村、清見村、荘川村、宮村、久々野町、朝日村、高根村、国府町、上宝村と合併し、日本一広大な面積を有する新しい高山市が誕生しました。

現在、平成 27 年度からスタートした高山市第八次総合計画に基づき、「人・自然・文化がおりなす 活力とやさしさのあるまち 飛騨高山」を都市像に掲げ、多様なまちの魅力や財産を活かしあうことにより、新たな活力や元気が生まれるとともに、やさしさがあり、幸せが感じられるまちの実現を目指しています。

## 高山市のあゆみ

昭和 11 年	11 月 1 日	高山町と大名田町が合併 市制施行 人口 30,857 人 岐阜県内 3 番目の市 市役所は旧高山町役場（神明町 4 現市政記念館）
昭和 12 年	4 月 10 日	上野平開墾起工式
昭和 13 年	10 月 5 日	安房峠開通
昭和 18 年	4 月 1 日	上枝村と合併 人口 39,471 人
昭和 23 年	7 月 20 日	乗鞍登山バス運行
昭和 25 年	4 月 1 日	朝日村・高根村が益田郡から大野郡へ編入
昭和 29 年	4 月 1 日	久々野町制施行
昭和 30 年	4 月 1 日	大八賀村と合併 人口 48,839 人
	4 月 15 日	高山祭（春）を初めて NHK がテレビ放送
昭和 31 年	6 月	地方財政再建促進法の適用を受ける（昭和 36 年解除）
	7 月 29 日	県立斐太高等学校、高山高等学校が放火により焼失
昭和 33 年	7 月 25 日	集中豪雨により市内で大きな被害 国鉄高山線は復旧に 15 日かかる
昭和 35 年	6 月 9 日	高山祭屋台（春 12 台、秋 11 台）が国重要有形民俗文化財に指定
	7 月 29 日	アメリカ合衆国のデンバー市と姉妹都市提携
	10 月	御母衣ダム完成 12 月 荘川桜移植（旧荘川村）
昭和 37 年	3 月 9 日	交通安全都市宣言
	6 月 17 日	午前 9 時 55 分 焼岳噴火（旧上宝村）
昭和 38 年	2 月 11 日	明るく正しい選挙都市宣言
昭和 39 年	11 月 1 日	国府町制施行
昭和 40 年	10 月 24 日～29 日	岐阜国体開催 高山市：バレーボール・ハンドボール会場、旧上宝村：山岳会場（9 月開催）
昭和 41 年	11 月 1 日	高山市民憲章制定
昭和 42 年	7 月 25 日	飛騨体育館オープン
昭和 43 年	9 月 17 日	屋台会館オープン
	10 月 28 日	市庁舎が馬場町に移転
		古い町並（恵比須臺組）で電柱撤去
昭和 44 年		高根第一ダム（9 月）第二ダム（3 月）完成
昭和 46 年	7 月 1 日	飛騨の里オープン
	11 月 1 日	長野県松本市と姉妹都市提携
		高山市への観光客が年間 100 万人を突破
昭和 47 年	4 月	下水道事業に着手 供用開始は昭和 54 年 6 月 1 日
	10 月 1 日	高山市市街地景観保存条例施行
	12 月 1 日	国道 41 号高山バイパス完成
	12 月 25 日	市の木「いちい」、市の花「いちばんつつじ」（和名こばのみつばつつじ）指定
昭和 48 年	7 月 1 日	乗鞍スカイライン開通（旧丹生川村）

昭和 49 年	2 月 15 日	東山地区などを市街地景観保存地区として指定
	5 月 24 日	宮川防災ダム完成 (旧宮村)
昭和 50 年	2 月 17 日	飛騨春慶が国の伝統的工芸品に指定
	3 月 22 日	高山市公設地方卸売市場開設
	5 月 10 日	一位一刀彫が国の伝統的工芸品に指定
	11 月 8 日	国立乗鞍青年の家完成
昭和 51 年	10 月 31 日	高山市図書館が上二之町に完成
		高山市への観光客が年間 200 万人を突破
昭和 53 年	9 月 18 日	平湯トンネル開通 (旧丹生川村・上宝村)
	10 月 25 日	国府町有線放送テレビ放送開始
昭和 54 年	2 月 3 日	高山祭屋台行事が国重要無形民俗文化財に指定
	2 月 3 日	三町 (古い町並) が国重要伝統的建造物群保存地区に選定
	8 月 22 日	洞谷災害発生 栃尾地区で大きな被害 (旧上宝村)
昭和 55 年	4 月 1 日	飛騨美濃有料道路・坂本トンネル開通 (旧清見村)
昭和 56 年	1 月	<b>56 豪雪</b> 高山市内の積雪累計は約 <b>7m</b>
	1 月 4 日	大雪で荘川中学校体育館が崩れる
昭和 57 年	10 月 22 日	神奈川県平塚市、福井県武生市 (現越前市) と友好都市提携
	11 月 1 日	市民文化会館オープン
昭和 61 年	3 月 24 日	国際観光都市モデル地区に指定
	4 月 11 日	国際観光都市宣言
		金森領国 400 年記念各種行事開催
昭和 63 年	9 月 23 日～ 10 月 30 日	<b>88 飛騨・高山食と緑の博覧会</b> 開催 入場者約 <b>70 万人</b>
	10 月 13 日	山形県上山市と友好都市提携
平成元年	2 月 18 日	<b>JR 高山本線</b> にワイドビューひだ号導入
平成 3 年	10 月 28 日	飛騨自動車検査場完成 飛騨ナンバー交付開始
平成 4 年	4 月 1 日	ごみ処理券制度開始 (県内初)
平成 5 年	3 月 26 日	第 1 回市民海外派遣 (シンガポール)
平成 6 年	12 月	高山本線全通 60 周年記念 SL 運行
	12 月 15 日	高山消防庁舎完成
平成 7 年	6 月 10 日	飛騨エアパークオープン (旧丹生川村)
	6 月 20 日	いじめのない明るい都市づくり宣言
	10 月 8 日～15 日	第 5 回全国食文化交流プラザ「味フェスタ <b>95 ぎふ</b> 」開催 入場者約 <b>53 万人</b>
平成 8 年	2 月 20 日～23 日	ぎふスズラン国体開催 (旧朝日村・久々野町)
	11 月 1 日	高山市役所新庁舎完成 (花岡町 2)
平成 9 年	8 月 1 日	福祉バス「のらマイカー」運行開始
	12 月 6 日	中部縦貫自動車道安房峠道路開通 (旧上宝村)

平成 10 年	8 月 20 日	高山駅周辺土地区画整理事業認可
平成 11 年	11 月 27 日	東海北陸自動車道荘川 IC 開通
平成 12 年	3 月 27 日	飛騨高山ビッグアリーナ完成
	8 月 1 日～12 日	全国高等学校総合体育大会開催（バスケットボール、アーチェリー）
	10 月 7 日	東海北陸自動車道飛騨清見 IC 開通
平成 13 年	12 月	国営飛騨東部第 1 土地改良事業完成
		高山市への観光客が年間 300 万人を突破
平成 14 年	3 月 21 日	中華人民共和国の麗江地区（現麗江市）と友好都市提携
	4 月 1 日	高山市潤いのあるまちづくり条例施行（県内初）
	9 月 26 日～30 日	第 8 回全国和牛能力共進会開催 飛騨牛が日本一に
平成 15 年	4 月 1 日	高山市男女共同参画推進条例施行
	5 月 15 日	乗鞍スカイラインマイカー規制開始（旧丹生川村）
	5 月 28 日	日和田ハイランド陸上競技場の全天候型トラック完成（旧高根村）
平成 16 年	4 月 23 日	高山市図書館「煥章館」オープン
	5 月 26 日	10 市町村が合併協定書に調印
	6 月 5 日	中山公園陸上競技場の全天候型トラック完成
	7 月	乗鞍山麓五色ヶ原の森開山（旧丹生川村）
	7 月 6 日	下二之町・大新町が国重要伝統的建造物群保存地区に選定
	9 月 21 日	美女街道・飛騨ふるさとトンネル開通
	10 月 20 日	10・20 豪雨災害 台風 23 号により大きな被害
	11 月 27 日	中部縦貫自動車道高山西 IC 開通（旧清見村）
平成 17 年	2 月 1 日	新高山市誕生（近隣 9 町村と合併し、日本一広い市が誕生）
	4 月 1 日	高山市誰にもやさしいまちづくり条例施行
	7 月 21 日	昭和児童公園（愛称：ポッポ公園）完成
平成 18 年	2 月 1 日	公募による新高山市 100 景を選定
	4 月 1 日	市の施設に指定管理者制度を導入
	4 月 3 日	地域福祉バス運行開始
	7 月 15 日	山王トンネル開通
平成 19 年	4 月 1 日	高山市美しい景観と潤いのあるまちづくり条例施行
	6 月 1 日	荘川総合センターオープン・荘川支所新庁舎完成
	9 月 29 日	中部縦貫自動車道高山 IC 開通
平成 20 年	1 月 28 日～30 日	常陸宮賜杯中部日本スキー大会開催
	3 月 28 日	西小学校体育館と総和保育園の合築工事が完成
	4 月 1 日	高山市ポイ捨て等及び路上喫煙禁止条例施行
	4 月 4 日	高山市教育研究所が一之宮支所内に移転 不登校児童生徒が通う「であい塾」も隣接地に
	5 月 28 日	飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアがナショナルトレーニングセンター高地トレーニング部門の競技別強化拠点に指定

平成 20 年	7 月 5 日	東海北陸自動車道が全線開通
平成 21 年	4 月 1 日	市内 5 箇所合併記念公園が完成
	6 月 27 日	高山駅の東西地区を結ぶ JR アンダーパス開通
	7 月 2 日	飛騨高山御嶽トレーニングセンターオープン
	7 月 18 日	アルプス展望公園「スカイパーク」が完成
	11 月 24 日～26 日	国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）との共催で ESCAP アジア太平洋・2009 バリアフリー高山会議を開催
平成 22 年	4 月 17 日	飛騨高山・森のエコハウスオープン
	4 月 24 日	飛騨高山ふるさと体験施設「秋神の家」オープン
平成 23 年	3 月 1 日	公共交通体系の再編を実施。中心市街地バス「まちなみバス」、地域バス「のらマイカー」を運行
	4 月 1 日	丹生川簡易水道、岩滝簡易水道、上野平専用水道を高山市水道事業に統合
	4 月 11 日	飛騨高山まちの博物館オープン
	5 月 1 日	高山市議会基本条例施行
	5 月 28 日	ペルー共和国のウルバンバ郡と交流に関する書簡を手交
	7 月 1 日	こくふ交流センターオープン・国府支所新庁舎完成
	7 月 4 日	中華人民共和国の昆明市と交流に関する覚書を締結
平成 24 年	2 月 14 日～17 日	ぎふ清流国体冬季大会開催（スキー競技）（会場：丹生川町、朝日町）
	4 月 21 日	中華人民共和国の昆明市と友好都市関係を樹立する意向書を締結
	6 月 10 日	第 1 回飛騨高山ウルトラマラソン開催
	6 月 26 日	東京都千代田区と「カーボンオフセット」の協定を締結
	7 月 16 日～17 日	ぎふ清流国体市民炬火リレー開催
	9 月 4 日	ルーマニアのシビウ市と友好都市提携
	9 月 29 日～ 10 月 9 日	ぎふ清流国体本大会開催（バスケットボール、アーチェリー、ハンドボール競技）（会場：飛騨高山ビッグアリーナほか 6 会場）
平成 25 年	4 月 1 日	飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアがナショナルトレーニングセンター高地トレーニング部門の競技別強化拠点に再指定
	4 月 1 日～ 翌年 3 月 31 日	第 1 回飛騨高山文化芸術祭開催（こだま～れ 2013）
	8 月 25 日	ペルー共和国のウルバンバ郡と友好都市提携
	9 月 22 日	高山国府バイパス開通
	9 月 27 日	9 月 21 日を高山市平和の日として制定
	11 月 2 日	国道 41 号小坂久々野トンネル開通
平成 26 年	4 月 1 日	高山市市民参加条例施行
	4 月 3 日	新穂高センターオープン
	8 月 17 日	豪雨災害 江名子町、石浦町で大規模な土砂災害が発生 清見町の宮前橋、河渡橋が流失

平成 26 年	9 月 21 日	高山市平和のシンボル「平和への絆」設置
	9 月 27 日	午前 11 時 52 分 御嶽山噴火
	11 月 7 日	フランス共和国のコルマル市及びコルマル都市圏共同体と経済及び観光分野における協力協定書を締結
	12 月	大雪で多数の倒木 市内各所で停電が発生
平成 27 年	4 月	全市域でまちづくり協議会の地域課題解決に向けた取組みがスタート
	4 月 1 日	福祉サービス総合相談支援センターを本庁及び各支所に設置
	4 月 1 日	高山市簡易水道事業の全 24 事業を高山市水道事業に統合
	10 月 30 日	平和サミット開催
平成 28 年	3 月 20 日	白山ユネスコエコパークの拡張登録が決定 対象エリアが荘川町全域に拡大
	4 月 25 日	日本遺産に「飛騨匠の技・こころ一木とともに、今に引き継ぐ 1300 年一」が認定（文化庁）
	8 月 3 日	ラオス人民民主共和国のルアンパバーン郡（現ルアンパバーン市）と交流に関する確認書を締結
	10 月 1 日	J R 高山駅新駅舎及び東西自由通路（愛称：匠通り）完成
	12 月 1 日	「高山祭の屋台行事」を含む「山・鉾・屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に登録
	～年度末	ユネスコスクール登録 市内小学校 14 校 市内中学校 6 校
平成 29 年	3 月 23 日	高山市教育大綱の制定
	3 月 24 日	高山市平和都市宣言
	4 月 1 日	飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアがナショナルトレーニングセンター高地トレーニング部門の競技別強化拠点に再々指定
	4 月 1 日	子ども発達支援センター設置
	4 月 27 日	国道 361 号高根トンネル開通
	6 月 29 日	（一財）飛騨高山大学連携センターオープン
		地方自治法施行 70 周年記念 総務大臣表彰（総務大臣）
平成 30 年	2 月 1 日	国府児童館開設
	2 月 4 日～8 日	全国高等学校総合体育大会開催（スキー アルペン種目）
	3 月 24 日	高山都市計画事業高山駅周辺土地区画整理事業完成式典
	3 月 26 日	久々野多目的センター（愛称：虹流館くぐの）オープン
	7 月	平成 30 年 7 月豪雨災害 7 月 7 日 大雨特別警報発表
	7 月 10 日	ベトナム社会主義共和国のフエ市と友好協力関係に関する覚書を締結
	7 月 18 日	飛騨高山まちの体験交流館オープン
	8 月 1 日～4 日	全国高等学校総合体育大会開催（アーチェリー）

平成 30 年	9 月	台風 21 号の影響により市内各所で停電が発生
	11 月 26 日～27 日	第 20 回米・食味分析鑑定コンクール国際大会 in 飛驒開催
	12 月 21 日	中華人民共和国の昆明市と友好都市提携
平成 31 年	3 月 20 日	東海北陸自動車道白鳥 IC～飛驒清見 IC 間 4 車線化完成
令和元年	6 月 27 日	乗鞍山麓五色ヶ原の森の新ルート「ゴスワラコース」開山
	8 月 4 日	第 68 回岐阜県消防操法大会開催（会場：飛驒エアパーク）
	11 月 1 日	フランス共和国のコルマル市及びコルマル都市圏共同体と経済、観光分野及び青少年の交流における協力協定書を締結
令和 2 年	2 月 22 日	高山市新型コロナウイルス感染症対策本部を設置
	4 月 1 日	母子健康包括支援センターを市保健センターに設置
	4 月 1 日	観光特化型バス「匠バス」運行開始
	4 月 1 日	全小中学校 学校運営協議会開始
	7 月	令和 2 年 7 月豪雨災害 7 月 18 日 大雨特別警報発表
	7 月 1 日	村半（若者等活動事務所）オープン
	7 月 5 日	市道下三之町本町線「行神橋」完成
	12 月 12 日	国道 41 号宮峠トンネル開通
令和 3 年	4 月 3 日	東京 2020 オリンピック聖火リレー開催 （高山陣屋前広場～高山駅西交流広場）
	5 月 21 日	「SDGs 未来都市」に選定
	6 月 21 日	飛驒高山移住定住サポートセンターを設置
	8 月 13 日	東京 2020 パラリンピック聖火フェスティバル高山市採火式開催 （会場：飛驒高山ビッグアリーナ）